

タイの衛星放送による日本語授業のアンケート調査

宮岸哲也

1. はじめに

ホアヒンのワンクライカンウォン学校⁽¹⁾から、タイ全土及び近隣諸国へ通信衛星で放送される日本語授業（以下、衛星日本語と記す）は、未だ組織的かつ定期的な利用が行われておらず、包括的な利用促進策が望まれている（宮岸 2006）。この施策を効果的なものにするためには、衛星日本語を授業として利用することが期待されている学校の日本語教師の意見も参考にするべきである。小論では、このような施策を考える上でも有用なタイの日本語教師の衛星日本語に対する考えを、アンケート調査により明らかにしたい。

2. 衛星日本語に関するアンケート

2.1 アンケートの概要

平成 16 年 3 月 11 日に国際交流基金バンコク日本文化センター行われた JTAT⁽²⁾ 日本語教育セミナーに参加した日本語教師を対象に、タイ語のアンケート票⁽³⁾を用いた調査を実施した。アンケートには全部で 31 名の回答があり、その中で、所属機関の種類についての回答があった 25 名（高校教師 13 人、大学教師 12 人）を分析の対象とした。なお、これらの回答者は、国籍ではタイ人 23 人、日本人 2 人、性別では女性 21 人、男性 4 人であった。

アンケートの内容は、衛星日本語についての知識や見たことの有無、評価、学校での利用状況、利用しない理由、改善点、その他関連することに対する考え方である。詳細については結果の中で述べる。また、回答の形式については、「はい」「いいえ」を選ぶもの（表 1・3 に示したアンケート）と、下の 5 段階のスケールで選ぶもの（表 2・4~7 に示したアンケート）を用意した。

1 強く同意する เห็นด้วยอย่างยิ่ง	2 同意する เห็นด้วย	3 どちらでもない เฉย ๆ	4 反対する ไม่เห็นด้วย	5 強く反対する ไม่เห็นด้วยอย่างยิ่ง
----------------------------------	-----------------------	-----------------------	--------------------------	-------------------------------------

集計に際しては、回答者全体（25 人）、高校教師（13 人）と大学教師（12 人）のそれぞれについて、人数や平均値（小数点第三位以下四捨五入）を出した。特に、高校教師と大学教師に分けたのは、衛星日本語が高校生を対象としたプログラムであり、高校教師とそうでない教師との間で回答の傾向に違いがあると判断したためである。

3. アンケートの結果と考察

3.1 衛星日本語についての知識と見たことの有無

これらについての質問項目と調査結果は、表 1 の①②の通りである。回答者全体の半数余りは

衛星日本語の存在を知っており、高校教師では7割弱、大学教師では4割程度である。また、衛星日本語を見たことのある教師は、回答者全体の3割にも満たないことが分かり、衛星日本語が十分に利用されていない状況が改めて明らかになった。

表1 衛星日本語についての知識と見たことの有無

①あなたは衛星日本語を知っていますか ท่านรู้จัก TJS หรือไม่			
はい รู้จัก	14人 (高9, 大5)	いいえ ไม่รู้จัก	11人 (高4, 大7)
②衛星日本語を見たことがありますか ท่านเคยรับชม TJS มาก่อนหรือไม่			
はい เคย	6人 (高4, 大2)	いいえ ไม่เคย	19人 (高9, 大10)

3.2 衛星日本語についての評価

表2の①～⑤は、衛星日本語を見たことがある教師6人(高校4人、大学2人)による衛星日本語に対する評価結果である。回答者が少ないために断言できないが、①②の結果の通り全体的に見ると、衛星日本語は面白いとも面白くないとも思われておらず、生徒に対する難易度は大凡適切なものであると考えられている。高校教師の回答だけを見ると、衛星日本語はさほど難しいとは考えられていない。これは、筆者が以前遠隔地の高校教師に対する聞き取り調査(宮岸2005)で、衛星日本語は難しいという結果であったこととは異なる。この違いが生じたのは、今回の回答者が都市部かそれに近い比較的高いレベルの日本語教育を行っているためだと考えられる。

一方、③の結果からは、教師自身にとって衛星日本語は易しいと考えられており、教師が衛星日本語を理解できないために活用できないということはなさそうである。しかし、④の結果のように衛星日本語が日本語指導に有用との考えには、否定的ではないが、積極的に支持しているわけでもない。特に利用が期待される高校教師の間で支持の度合いが低いのは問題である。この点で、送信側には、受信側の教師の指導にも役立つ授業の提供が求められる。生徒の自習用としては、⑤の結果に示されている通り、有用だと考えられているようである。

表2 衛星日本語についての評価

	全体	高校	大学
①衛星日本語は面白い TJS น่าสนใจ	3.00	3.30	2.50
②衛星日本語は生徒には難しい TJS ยากสำหรับผู้เรียน	3.33	3.50	3.00
③衛星日本語はあなたには難しい TJS ยากสำหรับท่าน	4.00	4.30	3.50
④衛星日本語は日本語指導に有用 TJS มีประโยชน์สำหรับท่านในการสอนภาษาญี่ปุ่น	2.67	2.80	2.50
⑤衛星日本語は生徒の自習に有用 TJS มีประโยชน์สำหรับการเรียนด้วยตนเองของผู้เรียนของท่าน	2.33	2.25	2.50

3.3 衛星日本語の学校での利用状況

表3の①～③は衛星日本語の学校での利用状況を聞いたものである。衛星日本語を学校で見られるかどうかは、衛星放送の受信設備の有無によるが、①の結果の通り、回答者が教えている高校の半数程度では、その設備が整っているのに対し、大学では3割にも満たない。

更に、②で衛星日本語を実際に学校で見たかどうかを尋ねてみると、その数は、高校と大学の教師それぞれ一人ずつに過ぎず、設備が整っていてもほとんど活用されていないことが示された。

また、③の結果を見ると、日本語以外の衛星放送による科目が5校の高校で利用されており、衛星日本語を見たことがあるという1校の教師よりも多いことが分かる。このことは、学校によっては衛星放送による授業が利用される可能性があるものの、日本語科目の場合は、他の授業科目と異なる特殊な理由で利用されないということも考えられる。

表3 衛星日本語の学校での利用状況

①学校で衛星日本語を見ることができるか	ท่านสามารถรับชม TJS ในสถาบันของท่านได้หรือไม่
はい 10人 (高7, 大3)	いいえ 12人 (高5, 大7)
②学校で衛星日本語を見たことがあるか	ท่านเคยใช้ TJS ในสถาบันของท่านหรือไม่
はい 2人 (高1, 大1)	いいえ 23人 (高12, 大11)
③あなたの学校で衛星日本語以外で衛星放送の授業を使ったことがあるか	สถาบันของท่านเคยนำไปรวมการสอนผ่านดาวเทียมอื่น ๆ นอกเหนือจาก TJS มาใช้หรือไม่
はい 6人 (高5, 大1)	いいえ 17人 (高7, 大10)

3.4 衛星日本語を利用しない理由

衛星日本語が利用されない理由として、どのようなことが考えられるかは、既に筆者の調査(宮岸 2005)でも述べているが、それぞれの理由がどの程度の妥当性を持っているのかについては、まだ不明な点が多かった。そこで、それぞれの理由について、どれだけの支持が得られるかアンケートによる調査を行った。表4の①～⑧はその結果である。

特に利用が期待されている高校教師の回答を見ていくと、利用されない最も大きな原因として考えられているのは、⑦の時間割が学校の授業と合っていないことである。①の設備がない、或いは②の設備が使いにくいという問題も比較的大きな原因として挙げられている。⑧の「新しい技術を導入するのが面倒だ」ということ、⑥の「衛星日本語の活用法がわからない」ということも、利用されない理由として、比較的高い数値を示している。これらの結果を見ると、衛星日本語を導入した授業の講習会や実践報告等を今後積極的に行っていく必要がありそうである。③の衛星日本語で使用する教科書の「あきこと友だち」が入手困難であることも、理由として考えられているが、大都市や地方の都市で購入可能なこの本が遠隔地の町や村で入手できるのかどうか、若干疑問視されているのかもしれない。

今までの調査では「カリキュラムが合っていない」ということが、衛星日本語の利用されない主な理由として考えられてきたが(宮岸 2005)、今回の調査では、④の結果に見るように、さほど重要な要因とはなっていない。このような結果になった理由は、今回の調査対象が都市部の教師に偏ったためかもしれない。都市部の高校生が学ぶ日本語は、衛星日本語の内容とほぼ一致しているが、前回の調査の主な対象となった遠隔地の教師は、衛星日本語の内容よりも易しく、より初歩的なシラバスを教えている。

最も注目すべき結果が出たのは、⑤の「日本語の教師がいる」という項目である。高校教師は、これが衛星日本語を利用しない理由とはならないと考える傾向にあり、日本語教師がいても更に衛星日本語が授業に入り込む余地があるということを示している。逆に、大学教師の場合は、「日

本語教師がいる」ことを衛星日本語を利用しない最も大きな理由として挙げており、衛星日本語を教師がいない場合の手段として考えている。

表 4 衛星日本語を利用しない理由

	全体	高校	大学
①衛星日本語を受信する設備がない อุปกรณ์สำหรับรับชม TJS ไม่สามารถหาได้	2.36	2.18	2.55
②衛星日本語の受信設備は使いにくい อุปกรณ์สำหรับรับชม TJS มีความยุ่งยากในการติดตั้ง	2.05	2.09	2.00
③衛星日本語の教科書は生徒に入手困難 ผู้เรียนมีความยุ่งยากในการหาซื้อหนังสือประกอบการเรียน TJS	2.42	2.40	2.44
④カリキュラムが合っていない หลักสูตรของ TJS ไม่สอดคล้องกับการเรียนการสอนภาษาญี่ปุ่นของท่าน	2.56	2.90	2.13
⑤日本語の教師がいる มีผู้สอนชาวญี่ปุ่นในสถาบันของท่าน	2.76	3.70	1.43
⑥衛星日本語の活用法がわからない ท่านไม่ทราบวิธีการใช้ TJS ในห้องเรียนของท่าน	2.33	2.45	2.20
⑦時間割が合っていない ตารางเวลาของ TJS ไม่สอดคล้องกับตารางเวลาของสถาบันของท่าน	1.80	1.64	2.00
⑧新しい技術の導入は面倒 ประสบปัญหาในการแนะนำเทคโนโลยีใหม่ เช่น TJS	2.35	2.30	2.40

3.5 衛星日本語の改善点

表 5 の①～⑦は衛星日本語で改善されるべき点について賛否を尋ねた結果である。まず、授業内容として最も支持されているのが、②の日本文化の紹介であり、今回のアンケートに答えた高校教師の大半が強く望んでいる。恐らくこれは各自の授業で最も情報量が不足するため、衛星日本語で補うことが望まれるのだろう。この高校教師の回答の傾向は、大学教師の場合と比べても高いが、大学よりも高校で日本文化の資料が不足していることが考えられる。

その他、授業内容についての改善点として、①の「もっと易しいレベルを教えるべき」との意見も強い。この結果は、既に見た表 2②の「衛星日本語は生徒には難しい」という項目に、全体としてやや否定的であったことと矛盾しているように思われる。因みに、表 5 には示されていないが、衛星日本語を見たことがある教師における「もっと易しいレベルを教えるべき」の項目の平均値は、1.83 であり、特に全体や学校別の平均値とも大きな差異は認められなかった。自分の授業のレベルに合っているかどうかは別として、遠隔地での衛星日本語の利用促進のためには、より易しいレベルを教えるべきだと考えているのかもしれない。

次に、政策的な支援である③の「研修コースを作るべき」との考えについても、比較的強い支持を受けている。⑥の「授業内容を事前に知らせるべき」、⑦の「配布プリントを事前に提供すべき」という点についても、ともに強く支持されており、授業時間以外のフォローが重要であるこ

表 5 衛星日本語の改善点

	全体	高校	大学
①もっと易しいレベルを教えるべき TJS ควรสอนภาษาญี่ปุ่นในระดับพื้นฐาน	1.73	1.64	1.82
②日本文化を紹介すべき TJS ควรแนะนำวัฒนธรรมญี่ปุ่น	1.39	1.17	1.64
③研修コースを作るべき TJS ควรฝึกอบรมผู้สอนที่ต้องการนำ TJS ไปใช้ในห้องเรียน	1.50	1.42	1.58
④もっと魅力的な教材を提供すべき TJS ควรจัดหาอุปกรณ์ประกอบการสอนที่น่าดึงดูดมากกว่านี้	2.09	2.08	2.10
⑤もっと効果的に宣伝すべき TJS ควรถูกทำให้เป็นผู้รู้จักในรูปแบบที่มีประสิทธิภาพมากกว่านี้	1.90	1.75	2.11
⑥授業内容を事前に知らせるべき TJS ควรแจ้งรายละเอียดของแต่ละบทเรียนล่วงหน้า	1.55	1.50	1.60
⑦配布プリントを事前に提供すべき TJS ควรแจกเอกสารประกอบการเรียนล่วงหน้า	1.55	1.50	1.60

とが示されている。④の魅力的な教材の提供と、⑤の効果的な宣伝は、以上の項目に次いで支持されているようである。

3.6 衛星日本語が解決できる問題

タイの日本語教育の現場では、様々な問題を抱えているが、それぞれについて衛星日本語が解決できるかどうか聞いてみた。表6の①～⑧はその結果である。まず、解決できる問題として最も支持を得たのが、⑧の日本語母語話者教師が不在の授業であり、これを支持する傾向は大学教師よりも高校教師で強い。日本語母語話者の教師は、高校よりも大学のほうが多く、日本語母語話者による発音を聞くことが難しい高校では、特に求められることなのかもしれない。

③の教材不足、⑤の日本に関する資料や情報の提供の不足等についても、衛星日本語が解決できる問題として支持されている。日本に関する資料や情報の提供については、大学よりも高校の教師の間で強く期待されているが、これは、前節でも述べたように日本に関する資料が一般的に高校よりも大学のほうが豊富であること、或いは、大学でより高度な情報が求められること等が考えられ、その結果、衛星日本語への期待が高校教師の間でより高いのかもしれない。

④の指導技術や経験の浅さ、①の教師不足、⑦の時間的な余裕のなさといった教師に関わる問題も、高校教師の間では衛星日本語が解決できるものとして支持されているが、大学教師の間ではその指示の度合いが低い。衛星日本語が高校生用の授業であり、高校日本語教師の多くが他科目との兼任で多忙なことを考えると、このような結果は当然である。⑥の学習者の関心のなさ、不熱心さといった問題の解決手段としての衛星日本語は、特に高校教師の間で期待度がさほど高くなく、②の学習者の多さは、明確に衛星日本語では解決できない問題として捉えられている。

表6 衛星日本語が解決できる問題

	全体	高校	大学
①教師の数が足りない。 受講生が人数に達しない	2.52	2.10	2.91
②学習者の数が多すぎる。 人数が足りず授業が滞る	3.58	3.89	3.30
③学習用の備品や教材が足りない。 教科書や教材が不足している	2.10	2.00	2.20
④教師が日本語を教える技術と経験が少ない。 受講生が理解しにくい	2.40	2.00	2.80
⑤日本に関する資料や情報が足りない。 授業に役立つ資料が不足している	2.14	1.80	2.45
⑥学習者の関心がない。あるいは学習に熱心ではない。 授業が退屈している	2.55	2.70	2.40
⑦日本語授業の準備に時間が不十分。 授業の準備が間に合わない	2.30	1.80	2.80
⑧日本語母語話者がいない。 発音や文法が聞き取れない	1.95	1.60	2.27

3.7 衛星日本語に関連する項目の考え方

3.7.1 衛星日本語の送信対象

表7の項目④⑤⑥⑦は、衛星日本語の送信対象についての考え方を尋ねたものである。まず、⑤の「衛星日本語はタイでの日本語教育の普及に役立つ」については、教師全体で見ても、高校教師と大学教師のそれぞれで見ても、そのように思われている傾向が強い。この質問項目は、衛星日本語の中心的な目的について聞いたものであり、この点についてはタイの日本語教師の間で

も理解され、支持されているようである。

㉔の「衛星日本語は遠隔地のみで利用されるべきだ」という考えについては、全体的にやや否定的であり、この傾向は高校教師のほうが強い。衛星日本語をそれ以外の場でも利用するべきだと考える傾向が高校教師に強いのは、衛星日本語が高校生を対象にしている、自分たちも利用が可能だと考えるためだろう。

㉕と㉖は、学校における日本語教師の有無と衛星日本語の利用についての考えである。まず、㉕の「衛星日本語は日本語教師がいない学校で使うべきだ」という考えについては、教師全体、或いは、高校教師と大学教師のそれぞれでも、やや肯定的という程度である。積極的な支持がないのは、日本語教師不在での衛星日本語の利用に不安を感じているためなのかもしれない。これについては、表 7㉕の結果のように、ファシリテータに日本語の知識を求めるべきとの意見が強いことから理解できる。一方、㉖の「日本語教師がいる学校では衛星日本語を使う必要はない」という考えについては、高校教師が反対し、大学教師もやや反対している。これらの結果から、日本語教師の有無に関わらず、衛星日本語が学校で利用されるべきだと考えていることが分かる。

3.7.2 受信校における衛星日本語の利用

表 7 の項目㉗㉘は、受信校における衛星日本語の利用について聞いたものである。まず、㉗の「衛星日本語はあなたの授業の代わりになる」との考えに、回答者全体としては賛否が曖昧であるが、高校教師ではやや肯定的、大学教師ではやや否定的である。この結果と平行し、㉘の「衛星日本語を使わなくても、あなたは日本語を教えることができる」と考えることについても、大学教師が明確に肯定しているのに対し、高校教師はその度合いが低い。このような結果が出たのもやはり、衛星日本語が高校生向けのプログラムであるためであろう。その他、高校教師は、自分自身の指導や職務上の環境に何らかの問題を抱えているために、衛星日本語の利用に否定的ではないとも考えられる。ただ、積極的な利用を考えているわけでもなく、このことが現在の衛星日本語が利用されない状況と一致している。

次に表 7 の㉙㉚㉛は、衛星日本語の利用の方法に関する項目である。まず、㉙の「衛星日本語の一部は、あなたの授業で使うことができる」かどうかの項目について、高校教師は肯定的で、大学教師はやや肯定的である。また、㉚の「衛星日本語を録画して私の授業に使えば、授業の準備は楽になる」という考えについて、高校教師はより積極的に支持し、大学教師も支持する度合いが高まっている。これらの結果から、受信校としては、衛星日本語が録画できる条件を整えること、送信校としては、部分的な利用もできるような体制と授業構成を考える必要があるだろう。特に後者の具体的な方法としては、年間の放送スケジュールと授業内容をいつでも確認できるようホームページ上に掲載したり、補助的な教材を充実させたりすること等が考えられる。㉛の「衛星日本語は生徒の自習用に使うべきだ」という考えについては、教師全体で見ても、高校教師と大学教師のそれぞれで見ても、同様にやや強く支持されていることが分かる。特に、大学教師の

回答としては、高校教師のポイントを若干上回っており、高校教師と同等かそれ以上に学生の自習用としての利用に肯定的であることが分かる。この理由としては、日本語の基礎的な力が不足している学生に対し、補習として自主的に利用することを期待しているのかもしれない。

3.7.3 衛星日本語の担当教師についての考え

表7の㉔㉕㉖は衛星日本語の担当教師についての項目である。㉔の「衛星日本語はタイ人教師によって教えられるべきだ」との考えには、全体としてやや否定的であり、この結果から、衛星日本語の教師は、タイ人よりも日本人が望ましいと考えられているようである。また、㉕の「タイ語ができない日本人教師は衛星日本語を教えることができる」との考えには、全体として肯定的である結果からも分かるように、日本人教師のタイ語の運用能力は概ね必要とは考えられていないようである。㉖の「衛星日本語はタイ語ができる日本人教師によって教えられるべきだ」との考えにも、全体的には消極的な支持にとどまり、タイ語ができる日本語教師の指導が強く求められているわけではない。ただ、教師別で見ると、大学の教師がこの考えに若干否定的であるのに対し、高校教師は肯定的である。最も強く求められているのは、㉖の結果の通り、タイ人と日本人の教師によるチームティーチングである。なお、㉔㉕㉖の数値を高校教師と大学教師で比較してみると、それぞれの項目における賛否の態度が、大学教師よりも高校教師のほうがはっきりしている。このような傾向が見られるのは、大学教師が衛星日本語を利用する可能性が低いいため、回答も曖昧なものにならざるを得ないのかも知れない。

3.7.4 衛星日本語の教え方と受信校の日本語教師の教え方についての考え

表7の㉗㉘は、衛星日本語とこれを受信して授業に利用する教師の教え方についての項目である。まず、㉗の「衛星日本語の教え方はあなたの教え方と異なる」の項目については、全体的に見ても教師別で見ても支持されており、衛星日本語の教師の教え方は、全体的に回答者自身の教え方とは異なると考えていることが分かる。なお、表7には示していないが、この項目について、実際に衛星日本語を見たことがある教師6人と、見たことがない教師19人の平均値を見ると、前者が1.67で、後者が2.29であった。実際に見る授業は考えている以上に、自分たちの教え方とは異なると考えられているようである。また、㉗の項目と関連して㉘の「日本人教師の教え方はタイ人教師の教え方と異なる」の項目も加えたが、結果としては㉗の結果ほど強くはないものの、肯定的な傾向が見られ、タイ人教師と日本人教師の間では日本語の教え方が異なると考えられていることが分かった。いずれにしても、教え方の違いがあると考えられている中で、どのように違うのか、そして、衛星日本語の教師がどのような教え方をすれば、受信校の教師に利用され易くなるのか、今後、調査・研究で明らかにする必要がある。

3.7.5 衛星日本語と受信校の学習者についての考え

表7の㉙㉚㉛は、衛星日本語と受信校の学習者についての考えの項目である。まず、㉙の結果から、教師全体としては、衛星日本語の授業がタイの伝統的な学習スタイルに合うかどうか、判

断しかねているが、高校教師の間では若干合っていない、大学教師の間では若干合っていると考えられているようである。また、㊸㊹の結果から、テレビを見るだけの授業では、生徒は熱心に勉強せず、外国語の学習としては対面授業が望ましいと考えていることが分かる。衛星日本語は残念ながら、これらの点で望ましいとは言えない。しかし、㊹の結果にも見られるように、外国語科目が衛星放送による授業に適さないものとは、必ずしも考えられておらず、衛星日本語もやり方次第では、受け入れられる余地が残っている。そのためにも、生徒達の集中力を切らさない授業構成と、対面授業ができない欠点を補う方法を考えるべきである。

3.7.6 衛星日本語と授業内容についての考え

表 7㉔の結果を見ると、日本語非母語教師による授業に、衛星日本語の日本語母語教師の発音が必要だと考える度合いは、特に高校教師の間で強い。衛星日本語の大きな利用価値として、母語話者による日本語の発音の提供があると言えよう。これは、㊹の「衛星日本語がタイ人教師によって教えられるべきだ」との考えに否定的であった結果とも通じることである。

㊹の「高校生の日本語授業では会話よりも読み書きのほうが重要だ」という考えについては、全体として否定的であるが、この結果からは聞くことのみでなく、話すことへの重要性も示されている。衛星日本語の関係者としては、この課題の取り組みについても考えていくべきである。

3.7.7 ファシリテータの日本語の知識についての考え

表 7の㉕の「衛星放送の日本語授業を受ける教室では、ファシリテータという人が生徒の学習を促すためにつく。このファシリテータは日本語を知っているべきだ」という考えについては、全体的にやや強く支持されている。衛星日本語を受信校で利用する条件の一つとして、ファシリテータの日本語の知識があることは、回答者の間でもよく理解されているようである。

表 7 衛星日本語に関連することについての考え方

	全体	高校	大学
㉔日本語教師がいる学校では衛星日本語を使う必要はない。 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	3.63	3.83	3.42
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	1.78	1.83	1.73
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	1.70	1.67	1.73
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	2.35	2.33	2.36
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	2.10	2.00	2.22
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	2.36	2.25	2.50
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	2.91	2.67	3.20
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	2.41	2.17	2.70
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	3.65	3.67	3.64

①高校生の日本語授業では会話よりも読み書きのほうが重要だ。 การอ่าน และการเขียนสำคัญมากกว่าการพูด และการฟังภาษาญี่ปุ่นสำหรับผู้เรียนในระดับ มัธยมศึกษาตอนปลาย	3.86	3.92	3.80
②テレビを見るだけの授業では、生徒は熱心に勉強しない。 ผู้เรียนไม่ให้ความสนใจกับการสอนผ่านดาวเทียมเพียงอย่างเดียว	2.14	2.17	2.10
③外国語の学習は対面授業が望ましい。 การสอนที่ผู้สอน และผู้เรียนอยู่ในห้องเรียนเดียวกัน (Face-to-face) เหมาะกับการสอนวิชา ภาษาดังประเทศ	1.82	1.83	1.80
④衛星日本語を使わなくても、あなたは日本語を教えることができる。ฉันสามารถสอนภาษาญี่ปุ่นโดยใช้ TJS ได้	2.48	2.75	2.18
⑤衛星放送の授業を受ける教室にはファシリテーターという人が、生徒を監督し学習を促す。このファシリテーターは日本語の授業では日本語を知っているべきだ。 ในการสอนผ่านดาวเทียม เจ้าหน้าที่ (Staff) จะถูกเรียกว่า "ผู้ประสานงาน (Facilitator)" เป็น ผู้ควบคุม และกระตุ้นการเรียนรู้ของผู้เรียน ดังนั้นผู้ประสานงานควรมีความรู้ด้านภาษาญี่ปุ่นในการเรียนการสอนภาษาญี่ปุ่นบ้าง	1.78	1.67	1.91
⑥衛星日本語を録画して私の授業に使えば、授業の準備は楽になる。 หากท่านสามารถบันทึก TJS ลงในวีดีโอเทป และนำไปใช้ในห้องเรียนของท่าน จะช่วยท่าน ลดความหนักในการเตรียมการสอนได้	2.09	1.75	2.50
⑦衛星放送による授業は伝統的な学習スタイルとは合わない。 การสอนผ่านดาวเทียมไม่เหมาะสมกับรูปแบบการสอนดั้งเดิม	2.95	2.75	3.22
⑧日本語非母語教師による授業に、衛星日本語の日本語母語教師の発音は必要だ。 การออกเสียงของเจ้าของภาษาซึ่ง TJS จัดหามานั้น มีความจำเป็นในห้องเรียนที่ผู้สอนไม่ใช่ เจ้าของภาษา	1.86	1.58	2.20
⑨タイ語ができない日本人教師は衛星日本語を教えることができる。 ผู้สอนชาวญี่ปุ่นที่ไม่สามารถพูดภาษาไทยได้ สามารถสอนภาษาญี่ปุ่นใน TJS ได้	2.17	1.83	2.55
⑩衛星日本語は遠隔地のみで利用されるべきだ。ควรนำ TJS ไปใช้ในพื้นที่ชนบทเท่านั้น	3.59	3.83	3.30
⑪衛星日本語はタイ人教師によって教えられるべきだ。TJS ควรสอนโดยผู้สอนชาวไทย	3.61	3.75	3.45
⑫衛星日本語はタイ語ができる日本人教師によって教えられるべきだ。 TJS ควรสอนโดยผู้สอนชาวญี่ปุ่นที่สามารถพูดภาษาไทยได้ดี	2.74	2.33	3.18
⑬衛星日本語はタイ人と日本人のチームティーチングで教えるべきだ。 TJS ควรสอนโดยคณะผู้สอนทั้งชาวไทย และชาวญี่ปุ่น	1.68	1.42	2.00

4. おわりに

今回のアンケート調査には、遠隔地の日本語教師、或いは教師が不在のために日本語の授業を実施できない高校の関係者の回答が含まれていなかった。今後は調査対象を様々な地域にいる教師に広げていく必要があるが、今回の調査対象が都市部の高校や大学の教師に限定されていても、タイの高校日本語教師、或いはタイの日本語教師一般としての衛星日本語に対する考えが、ある程度は見えてきたと思う。これらを踏まえ、衛星日本語の利用を促進させるための要点を挙げると次の通りである。

衛星日本語そのものについては、受信校の場所や日本語教師の有無に関わらず利用でき、また、

正規の授業だけでなく、生徒の自習や補習にも利用できるようにするべきである。シラバスと年間の授業スケジュールをホームページ上に掲載するのは、その一つの方法といえるだろう。毎回の授業は、全体的にでも部分的にでも利用可能で、具体的には日本文化の紹介、魅力的な補助教材の提供、易しいシラバスの追加等、受信校のニーズや状況に合わせた内容が盛り込まれるべきである。衛星日本語の教師については、日本語母語話者が望まれ、タイ人教師とのチームティーチングであれば、より理想的である。課題としては、生徒達を熱心に学ばせ、対面授業が行えないことの欠点を克服していくことが挙げられる。その他、毎回授業で使われるプリントをホームページ上に掲載したり、受信校で衛星日本語の録画を容易にする体制を整えたりすることも、衛星日本語を利用し易くするために必要である。また、授業以外の支援として、ファシリテータの講習会を行ったり、教科書入手の便宜を図ったりすることも求められる。

今回の調査結果を参考に様々な利用促進策を考えていくべきであるが、これらのことは、衛星日本語の教師だけでは対応できないために、関係者が協力し合っていくことが必要である。

注

- (1) ワンクライカンウォン学校は、初等学校（日本の小学校に相当）と中等学校（日本の中学校と高等学校に相当）から成る。キャンパスは少し離れているが両者は一体で運営されている。日本語の授業は中等学校の高等学校相当部分で実施されている。
- (2) JTAT は、Japanese Teachers Association in Thailand（タイ日本語教師研究会）の通称で、大学、ラチャパット大学、高校のタイ人日本語教員を中心とした研究会である。年2回のセミナーを行っている（国際交流基金日本語国際センター2003）。
- (3) タイ語のアンケート票は、筆者が作成した英語のアンケート票を広島大学大学院で学ぶタイ人留学生が翻訳したものである。なお、アンケート票のタイ語文の中にある TJS という略語は衛星日本語のことである。

参考文献

- 宮岸哲也（2005）「タイの衛星放送を用いた遠隔教育としての日本語教育の問題点—遠隔地で利用されないのはなぜか—」『2005年度日本語教育学会研究集会第10回中国地区研究集会予稿集』、日本語教育学会、25-30
- 宮岸哲也（2006）「タイの衛星放送による日本語授業の利用促進のために」『国際交流基金バンコク日本文化センター日本語教育紀要』第3号、国際交流基金バンコク日本文化センター、221-226
- 国際交流基金日本語国際センター（2003）「日本語教育国別事情 教師会・学会一覧」『国際交流基金』 <http://www.jpff.go.jp/j/japan_j/oversea/kunibetsu/g_s_e_asia.html>